

2022年11月18日

株式会社三菱UFJ銀行

株式会社キッズコーポレーションホールディングスで 「サステナビリティ・リンク・ローン」及び「ソーシャルローン」契約を締結

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 はんざわ じゅんいち 半沢 淳一、以下 当行）は、ユニゾン・キャピタル株式会社（代表取締役 はやしたつや 林 竜也、同 かわさきたつお 川崎達生、以下 ユニゾン）が運営するファンド（ユニゾン・キャピタル5号投資事業有限責任組合及びUnison Capital Partners V(J), L.P.）による株式会社キッズコーポレーションホールディングス（代表取締役 おおつかまさかず 大塚雅一、同 かまのしんじ 釜野晋史、以下 キッズ社）の株式取得資金及び同社の運転資金を資金使途とするタームローン契約を締結し、2022年7月29日付でローン実行していましたが、今般、ローン・マーケット・アソシエーション¹⁾（以下、LMA）等が定めたサステナビリティ・リンク・ローン原則に即した「サステナビリティ・リンク・ローン」及び、同じくLMA等が定めたソーシャルローン原則に即した「ソーシャルローン」に基づいたローン契約の変更契約（以下、本契約）を本日付で締結いたしました。

サステナビリティ・リンク・ローン原則では、借り手のサステナビリティ目標と連携したサステナビリティ・パフォーマンスターゲット（以下、SPTs）を設定し、金利などの貸付条件とSPTsに対する借り手のパフォーマンスを連動させ、SPTs達成への動機付けを与えることで、環境的・社会的に持続可能な経済活動および経済成長を促進し、支援することを目指します。

キッズ社は、子ども主体の保育を特色とする1993年創業の保育サービス企業で、全国213の病院内・企業内保育所の運営を受託しているほか、東京都を中心に直営認可保育所を21園運営しています。本契約では、キッズ社の受託契約の純増数と保育士の離職率についてSPTsを設定しました。近年のESG/SDGs視点の高まりや人材不足を背景として、従業員の子育て支援に関する法人側の姿勢は変わりつつありますが、認可保育所に代表される定式化された受け皿だけでは対応しきれない、就労状況によって異なる保育ニーズ（夜勤への対応等）に対しては、具体的なソリューションが社会全体で不足しているとのことです。保育所運営受託において、大手のキッズ社が企業基盤を強化し、これまで以上に受託契約数を増やしていくことは、キッズ社の企業価値向上のみならず社会課題の解決に直接繋がることから、契約純増数のSPTsを設定しました。また、保育士の離職率は、受託契約数の増加を支え、質の高い保育サービスを提供する観点で重要な指標であり、同じくSPTsを設定しています。

なお、M&Aファイナンスに関連するローン契約において「サステナビリティ・リンク・ローン」を提供することは、本件が当行初の事例となります。

また、ソーシャルローン原則では、社会課題解決に資するプロジェクトに資金を充当し、当該プロジェクトにより、対象となる特定の人々に対してポジティブな社会的な効果をもたらすことを目的としています。本契約の資金使途は、ユニゾンのソーシャルローン・フレームワークに基いて、「保育サービスを利用する人々」を対象とする社会的便益を有していると評価されています。

本契約では、株式会社日本格付研究所（以下、JCR）より、サステナビリティ・リンク・ローン原則への準拠及び、設定した SPT の合理性について 2022 年 11 月に第三者意見を取得しています。加えて、ユニゾンのソーシャルローン・フレームワークは、JCR より、ソーシャルローン原則への準拠について同じく 11 月に第三者評価（Social 1（5 段階中の最上位））を取得しています。

JCR の第三者意見については以下をご参照ください。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

[1] 欧州、中東、アフリカのシンジケートローン市場の流動性、効率性、透明性を改善することを目的とした協会。英国に本拠地を置き、欧州・中東を中心に 65 ヶ国以上約 800 機関が加盟。

以 上